

今、何が起きているかを知るために・・・

## 第2回 西成特区構想有識者座談会 提出資料から部分紹介

「現地意見集約過程」はどのようなようになされているのか・・・

「西成特区構想有識者座談会」の2回目が開催され、その時提出された資料が、西成区のホームページで公開されています。

2回目は、現地での「まちづくり活動」の状況についての報告、将来像の様々な意見の報告が中心でした。

発表者は、長らく「萩之茶屋小・今宮中学校周辺まちづくり研究会」のコーディネーターを務め、「(仮称)

萩之茶屋まちづくり拡大会議」のまとめ役を務めている寺川さんと、「釜ヶ崎のまち再生フォーラム」事務局長のありむらさんの二人でした。

お二人が発表された「まちづくり」に関する意見が、どのような過程を経て蓄積されたものであるのかを示した資料を、裏面に紹介しておきます。いずれも、10年以上の積み上げがあることが判ります。

資料の中に「連携・協働を困難にしている課題」について触れているものがあって、萩之茶屋連合振興町会の地域内世帯数は17,012世帯であるけれど、町会に加えている世帯は約6・4%で、「地域コミュニティの乖離現象」があると指摘されています。

その「乖離」を埋める手段として、「まちづくり拡大会議」は、町会関係以外の簡宿組合・支援運動体・地域内施設関係者・子ども施設などなどの団体が参画しているということです。(ちなみに、釜ヶ崎夜間学校・

釜ヶ崎資料センターは、今のところ、個人の営みであって団体ではありませんので、参加していません)

「まちづくり拡大会議」と補完関係にある「再生フォーラム」は、参加予約不要の個人参加が可能な会合

で、西成市民館で開催されています。ですから、松繁は、こちらの方には都合のつく時と話題によって参加して

います。「あいりん地域のまちづくり」に関して提言するにふさわしいお膳立てはなされていたので、今回の西成特区構想は、時節到来、我が世の春、みたいな感じが、「拡大会議」「フォーラム」関係者の中にあるように思

えます(それは、これまでの経緯から当然のことかと)。まちの変化はまったなし、大きな積み上げがあることは理解されたと思います。では、夜間宿所利用者は、どうなる、どうする? 生活保護活用を真剣に!

# あいりん地域でのまちづくり議論の経過や状況

<2012年7月1日更新版>

